

男も女も自分らしく

～男女共同参画社会を目指して～

日々の生活の中で、「男はそういうことをしてはいけない」とか「女だからこうであるべき」などと、言われたり聞いたりしたことはありませんか。性別や言語、年齢の違いなど、私たちは一人ひとりが異なります。誰もが幸せに暮らしていくためには、それぞれの個性や特性を尊重し、個人の能力を発揮して自分らしい生き方をできる社会が望まれます。

今号では、『男女共同参画社会』について考えてみましょう。

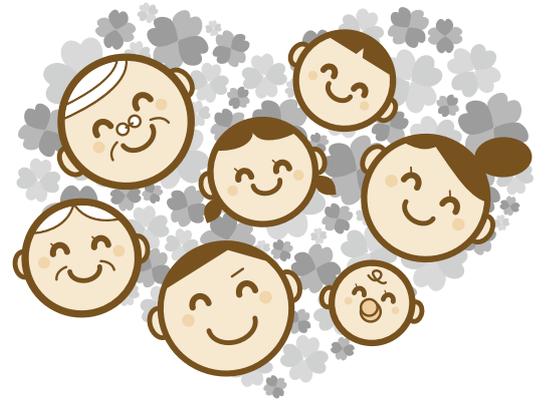
男女共同参画社会とは

男女が性別に関わらず、社会の対等なパートナーとして、自らの意志により社会のあらゆる分野に参画できる機会が確保されることによって、男女が均等にさまざまな利益を享受し、共に責任を担うことができる社会が、『男女共同参画社会』です。

このような社会を実現するためには、性別に関する偏見や差別をなくし、一人ひとりがその個性と能力を十分に発揮できる環境を整備することが大切です。

男女が働き続けられるために

内閣府が発行している『男女共同



参画白書』の平成29年度版によると、第一子出産前後で女性が就業を継続する割合は、約5割となっており、初めての出産に伴い約半数の女性が仕事を退職しています。

また、週間就業時間が60時間以上の雇用者の割合については、女性が2・6割に対して男性は11・7割であり、男性のほうが長時間労働する傾向にあります。

男性は長時間労働することを望み、女性は出産後の退職を望んでいるのでしょうか。

国立女性教育会館が平成27年度、新規大学卒業者を対象に、現在の就業状況や今後の人生設計などに関する調査を行いました。

調査の設問の一つに『正社員としてどのような働き方をしたいか』が

あります。未婚のときは、「急な残業もあるフルタイムも可能」と回答した人が、男女共に60割以上と最も多くなっています。

一方で、未就学の子どもがいる場合の働き方は、男性は「急な残業もあるフルタイムも可能」と回答している人は23・8割に減少し、「残業のないフルタイムを望む」と回答した人は増加しています。女性では、フルタイムで働きたいという回答は減少しているものの、「正社員として働かないことが希望」と答えた人は10・9割にとどまり、約5割の女性が初めての出産後に退職している実態と離れています。

この調査では、女性は、子どもが生まれた後も仕事を続けたい傾向が見られます。女性が子育てしながら

正社員として希望する働き方 (数字は全てパーセント)

	男性		女性	
	未婚時	未就学の子どもがいる	未婚時	未就学の子どもがいる
急な残業もあるフルタイム	69.6	23.8	60.0	1.1
残業のないフルタイム	13.7	30.4	26.7	4.4
時間の融通がきくフルタイム	16.0	41.0	12.4	21.7
短時間勤務	0.5	3.1	0.8	46.7
家でできる仕事	0.3	1.7	0.0	15.2
正社員として働かない	0.0	0.1	0.0	10.9

働き続けられるようにするためには、男性の積極的な家庭や子育てへの参画が求められます。長時間労働の是正など男性自身が働き方を見直すだけでなく、社会全体で意識や行動を変えていく必要があります。